

表 1.3 植物の生理活性ペプチド

シグナル配列	ファミリー	メンバー数 ^a	代表的なメンバー ^b						
			名前	前駆体(aa)	機能型(aa)	プロセッシング	修飾	機能	
あり	翻訳後修飾ペプチド	CLEs	32	CLV3	96	13	+	糖鎖・プロリン	茎頂分裂組織の維持
		RGFs	9	RGF1	116	13	+	チロシン硫酸化	根端メリステムの形成
		PSKs	5	PSK1	86	5	+	チロシン硫酸化	細胞増殖促進
		PSY1-3	3	PSY1	75	16	+	チロシン硫酸化	細胞増殖促進
		CEPs	6	CEP1	91	15	+	プロリンヒドロ	側根形成に関わる?
		Tobsys		TobSys	165	18	+	糖鎖修飾・プロ	防御応答の誘導
	IDA/IDL1-5	6	IDA	77	未同定	+	未同定	花の脱離	
	チリシドチペイン	RALF/AtRALFI	34	RALFL23	138	未同定	+	S-S結合?	根系pHの調節?
		EPF1,2,EPFL1-9	9	stomagen	102	45	+	S-S結合	気孔形成、花茎の伸長
		SCR/SP11		SP11	74	50	-	S-S結合	自家不和合性
LUREs		5 ^c	AtLURE1.1	94	未同定	?	S-S結合?	花粉管の誘導	
なし	Systemin類		systemin	200	18	+	なし	防御応答の誘導	
	POLARIS	1	polaris	36	未同定	?	不明		
	ROT4/DVLs	23	ROT4	53	未同定	-	不明	葉の形態形成	

^a: そのファミリーに属するペプチドをコードするシロイヌナズナのホモログ数。相当するホモログがない場合は網かけで示した。

^b: 機能解析が進められているシロイヌナズナのホモログ、ない場合には他の植物に由来するペプチドの特性を示した。

^c: LUREsをコードする遺伝子のうち一つは花粉管誘導の機能が認められない。